

## V 保護者アンケートから

保護者アンケートについて、回答数が多かった平成26年度のアンケートを分析した。  
(参加者41名・回答数33名・回答率80.5%)

質問項目は1. 食事のとり方、2. 早寝早起き、3. 入浴の仕方、4. 言葉遣い、5. 整理整頓、6. 宿題の取り組み、及び自由記述の7項目である。

1. 3. 4. 6については(良くなった・変わらない・悪くなった)、2. 5については(できるようになった・少しできるようになった・できるようにならなかった・以前からできている)の中から回答を選択していただいた。

対象	食事	早寝早起	入浴	言葉遣い	整理整頓	宿題
全体	3/33	10/33	3/33	0/33	16/33	10/33
二小	3/19	6/19	1/19	0/19	10/19	5/19
東小	0/14	4/14	2/14	0/14	6/14	5/14
男	2/17	2/17	1/17	0/17	7/17	3/17
女	1/16	8/16	2/16	0/16	9/16	7/16
4年	2/13	4/13	2/13	0/13	5/13	5/13
5年	0/9	5/9	1/9	0/9	6/9	3/9
6年	1/11	1/11	0/11	0/11	5/11	2/11

上の図は、質問項目に対して、良くなった・できるようになった・少しできるようになったの向上を表す言葉が選択された人数である。整理整頓で約半数、早寝早起きと宿題で約1/3に向上が見られたと保護者の方が感じたということになる。

学校別に比較したが、第二小学校と東小学校で大きな差異はなかった。男女別で比較すると男子よりも女子により多く向上が見られた。学年別の比較では、6年生に比べて4年生に向上が見られるが、5年生が向上が多いことや、整理整頓では6年生も多く向上しているため、学年での差の特定までは至っていない。

次に、特に向上が多く見られた早寝早起き・整理整頓・宿題の3項目について検証した。

### ○整理整頓

テンちゃん一家の家訓(お家の約束)

- 一. 心も身体も健康でいること
- 二. 元気にあいさつをかわすこと
- 三. 時間を守って行動すること
- 四. 自分でできることは自分ですること
- 五. 話をする人の目を見て聞くこと
- 六. グループや同じ部屋の人と行動すること
- 七. 一日一回は「ありがとう」と言うこと
- 八. 整理整頓に心がけること
- 九. 楽しむ時と、まじめに取り組む時の区切りをしっかりとつけること
- 十. こまったことがあったら友達やスタッフに相談すること

一番向上が見られた整理整頓について左図の家訓を確認すると、八. に整理整頓がある。

食事や言葉遣いに比べ、最初に提示した家訓に記載されていたため、子供たちのビーイングにも当初から目標として書かれていた数が多くなっている。

ビーイングからの検証をするため、班毎に整理整頓の向上について見てみると、3班が7人中5人が向上(1名未提出

のため5/6)しており、他の班に比べて目立つ。  
 3班の家訓を確認すると三.に整理整頓が入っているほかに、八.にさらに掘り下げて、身の回りのことは自分で責任を持ってやる事が加えられている。ほかの班の家訓にも整理整頓が入っている班もあるが、それをさらに自主的に自分達の言葉に置き換え、ルールにすることが出来たことが、家庭に帰っても実行することができたのではないかと推察できる。

### 3班の家訓

- 一、一日一人以上笑めせて笑顔で生活すること！
- 二、他人の意見を尊重して、みんなと協力すること！
- 三、整理整頓すること！
- 四、五分前行動をして、時間を守って動くこと！
- 五、切り替えをきちんとして、けじめをつけること！
- 六、生活リズムを整えること！
- 七、困ったことがあったら、友だちを頼って、すぐに相談すること！
- 八、身の回りのことは自分で責任をもつこと！
- 九、人に親切をしてもらったら、ありがとうということ！
- 十、ずれた人とはしゃべらないこと！

### ○早寝早起き

早寝早起きについては、特に女子の半数に向上が見られ、男子より女子が優秀に見える。しかし、実際 消灯時間にいつまでも寝ずにおしゃべりをし、担当者を困らせたのは女子だった。

班別に向上を確認すると各班1～2名と極端なデータの差はない。班毎の家訓を確認すると4班の家訓に早寝早起きがでてくる。4班は夜、特にうるさく、同室内や隣の部屋ともめ、「これ以上うるさくて寝れないなら、もうキャンプから帰りたい」という子どもが出るなど、トラブルがあった。そこで、4班では子供達自身で家訓にこのルールを加えたのではないかと推察できる。4班女子4名中2名に向上(2名は未提出)しているため、嫌な思いもあったと思うが、それが成長につながっていることを望む。

### 四班の家訓

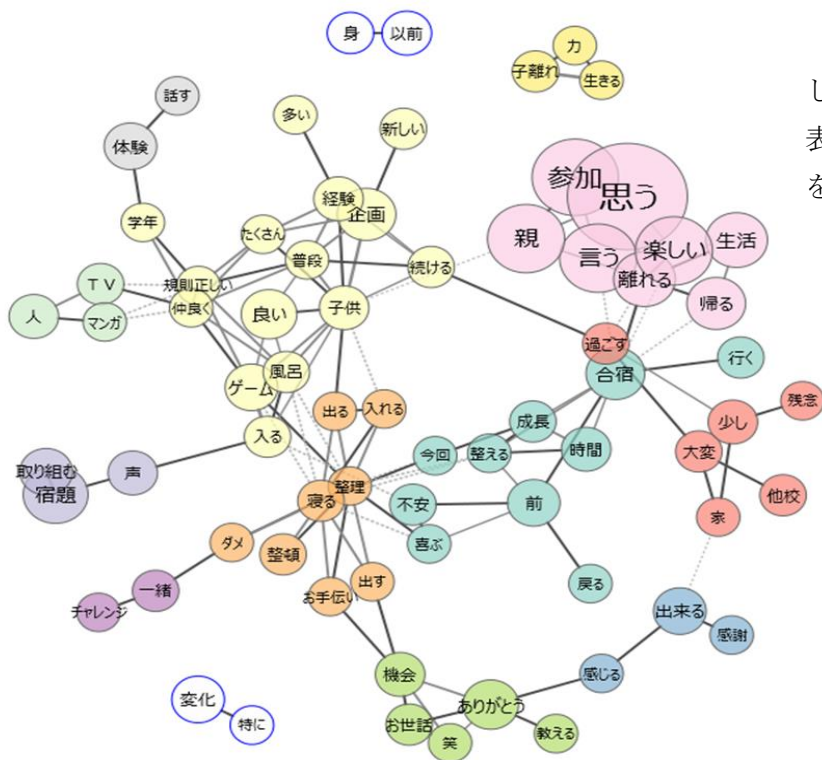
- 一、笑顔を忘れずに生活すること
- 二、時間を見て行動すること
- 三、相手の気持ちをよく考えてみんなと助け合い誰とでも仲よくすること
- 四、早寝早起きをしっかりと、健康に心がけること
- 五、あいさつをされた人が気持ちよくなるようにあいさつをすること
- 六、一人でできないことをみんなと協力してやりとげる

### ○宿題

これについては、班活動から離れた部分もあり、友達からの影響が大きい。普段あまりやらない子供もみんながやっていたら、自ずとやることになり、毎日繰り返されることで、他人の取り組み状況が見えてくる。他校の友達からの影響も大きいと考えられる。加えて、これも男子に比べ女子の方に向上がやや多い傾向があり、女子の方が男子に比べコミュニティを形成する傾向が強いため、友達からの影響を受けやすいのではないかと推察される。



次に KH コーダーを用いて自由記述について分析した。



左図は出現回数の多い言葉とその関連性を表している。(言葉の近さや線の太さで関連性を表している。) 下図は3回以上記載された言葉をまとめた表である。

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
思う	27	前	5	子ども	3
参加	16	体験	5	子離れ	3
楽しい	13	変化	5	寝る	3
言う	13	以前	4	新しい	3
親	13	機会	4	身	3
自分	9	経験	4	進む	3
宿題	9	子供	4	成長	3
友達	9	時間	4	整頓	3
生活	8	少し	4	続ける	3
離れる	8	人	4	他家	3
企画	7	声	4	大変	3
帰る	7	TV	3	入る	3
合宿	7	お世話	3	不安	3
良い	6	一緒	3	風呂	3
ゲーム	5	過ごす	3	変わる	3
取り組む	5	見る	3		
出来る	5	行く	3		

出現回数の多い言葉をピックアップすると、「参加」については「良い経験が出来た。新しい友達が出来た。子どもが楽しかったと言って帰ってきた。良い企画なのでこれからも続けて欲しい」など肯定的なご意見をたくさんいただいた。

「宿題」についての記述も多く、「声掛けしなくても自分から進んで取り組むようになった」という記述が複数あり、事業のねらいが成功している例といえる。

しかし、「変化」についてはなかったとのつながりも多く、1～6の質問項目でも変化がなかったという回答の方が多い。より多くの参加者に影響を与えるようなプログラムや意識づけなども検討が必要と考える。

こちらが意図していない言葉では、「親離れ」「子離れ」が多く記述された。中には「親離れ、子離れが目的で参加しました。」「家から離れて生活することで生きる力を身に付けさせたい」などの記述もあり、そういったねらいで事業に参加している子どもがいることが分かった。

子どもの生活面の変化は特になかったが、「1週間親元を離れ一回り大人に成長して帰ってきたと思う。」という変化を感じ、来年も参加させたいという方も多く、そういった保護者のニーズに応える形にもなっている。

<まとめ>

以上の考察から、

- キャンプ期間中、やらされではなく、自分から自主的に取り組めた内容は、家に帰ってからも継続して行動できている。
- 生活面での変化は少なかったが、親離れをとおして精神的に成長し、生きる力を身に付けるなど、キャンプが子どもたちにとって良い経験になっていると感じている保護者が多い。

などのことがわかった。自主性については最初に所側で示す家訓(ルール)の影響を大いに受けており、こちらでの設定の仕方など工夫が必要と感じた。また、男女による向上の差が本当にあるのかなど、今後も以降も検証していく必要がある。

# VI ボランティアレポート

子供たちが一週間の生活を続ける際、その指導・支援には職員のほかに施設ボランティアの存在が不可欠である。彼らも日中は本文である大学での学業に励みながら、夜には交流の家で子供たちと生活を共にしていった。

特に、各班のグループリーダーのボランティアは、グループの子供たちに添い、学習・生活における支援に当たった。健康面の観察や心のケア等、細部にわたり子供たちの拠りどころとなった。

また、グループリーダーの補佐・援助等を担うボランティアとして、統括リーダーを複数のグループごとにまとめて配置した。統括リーダーは、グループリーダーの補佐・援助とともに、グループリーダーへ子供たちへの関わり方などを助言する立場として、施設ボランティアの経験が豊かな先輩ボランティアが担った。

さらに、ボランティア全員を統括し、職員との連絡・調整役としての統括チーフも配置し、ボランティアのケアもできるような組織で一週間の合宿を行った。

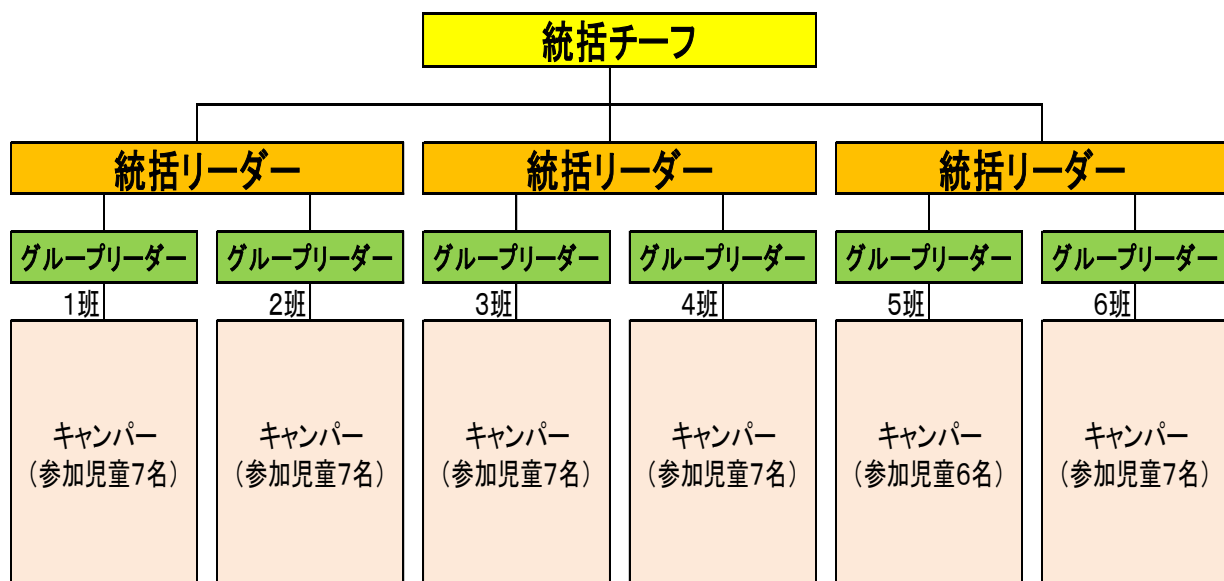
この「テンちゃん一家の一週間」は、参加する子供たちの成長はもちろんだが、ボランティアにとってもスキルアップをすることのできる合宿である。ボランティアには教職を目指すものも多く、子供たちと深く関わる経験をしていくことで、自身の成長を実感する者も多かった。

## 1 テンちゃん一家の一週間 組織図

【第4回（平成26年度 滝沢第二小学校滝沢東小学校）の例】

### 【教育事業】テンちゃん一家の一週間 ボランティアスタッフ・キャンパー組織図

岩手山青少年交流の家 職員



## 2 ボランティアスタッフのレポート（日々のふりかえりシートから）

< 1 日目 >

○私の班は5年生ということで、子供たちにどれだけの力があるのか、どこまで任せてよいのか、手探り状態から始まりましたが、慣れてくると子供たちは思っている以上に話しかけてくれたり、質問をしてきてくれたりしました。また、スタッフ側から歩み寄るすきを見せないくらい活発で驚きました。自分で考える力もしっかりもち、お互いを思いやる場面も多々見られたので安心しました。明日以降、もっと子供たちに任せながら（健康と安全にはしっかり気を配りながら）、子供たちを信じて活動していきたいと思います。（3年生 女子学生）

○今日一日過ごしてみて、自分のことに関しては、まず、コミュニケーションをとることが不足しがちだったと思います。私の言葉が足りなかったり、この後どう進行していけばいいのか迷ったりして、話し合いの中で無言状態が続くこともありました。また、班の子供たち一人一人としっかりと接する機会がなかったなど、自分の力不足を痛感しました。Yさん（先輩ボランティア）がフォローしてくれましたが、話し合いなどではYさんが話したりすすめたりする場面が多く、それを見ながら、今このタイミングで声をかけるべきだったんだ、こういう声掛けが求められていたんだなどと勉強になりました。と同時に自分のふがいなさも感じました。自分のことだけでなく、もっと子供たちに目を向けていかなければならないと思います。優しい子供たちがたくさんいると感じました。初日ということで気を使っていると感じる子供もいましたが、そういった子供たちのいいところをもっと引き出せるようになりたいと思います。（1年生 女子学生）

< 2 日目 >

○班でのビーイングの時に子供たちが自分から話してくれず、この班はこれからまとまっていくのかとても不安を感じました。しかし、ボランティアミーティングで言われたように、あせらずに子供たちの日々の成長を少しの不安と期待をもちながら接するように心がけたいと思います。成長を感じられたらほめたり声掛けをしたりなどの援助も忘れずにしたいです。心の感度を上げて子供との信頼関係を深めていきたいと思います。主役は子どもと意識しつつも、自分の葛藤を感じながら過ごしていきます。（2年生 女子学生）

○昨日は初日で、初めて出会った子供たちの雰囲気のみ込まれてしまいましたが、今日は子供たちの中に入りながら活動できたと感じています。子供たちの班としてのまとまりも出てきたと思います。初日は子供たち同士での仲が良くなっていたので、今日はそこに私が入っていく感じでした。子供たちは、自発性や相手を思いやる気持ちがあらゆる場面で見られたので感心しています。学校や男女の違いを感じさせない行動は本当にすごいと思っています。昨日よりも私のことを気軽に呼んでくれるようになり、話す回数も増えたので私自身が安心し、徐々に流れをつかんできました。変化を感じたポイントは、17時からの学習の時間です。勉強を教えることが最近の私の経験で慣れてきていたので、聞かれたことをすらすらと教えることができました。そのため、子供たちに安心感を与えたようです。まずは自分の行動がいつも子供に見られているという意識をもって、自分の短所（ルーズなこと）に気をつけながら、残りの日数をがんばっていきたいです。（1年生 女子学生）

< 3 日目 >

○昨日よりも素を出す子が多くなってきているように感じました。それに伴ってふざける場面も多く見られました。遊びから発展してけんかのように手が出たり悪口が過ぎたりするのではないかと心配しています。しかし、それが子ども同士のコミュニケーションの一つだったりするので、ただのストレスのぶつけ合いのようなものはしっかり止めるなど、見極めながら子供たちを見守っていきたいです。「見守る」と「ただ見ている」の違いを自分の中で意識したいです。私自身はこの通学合宿が2回目ということで慣れが出てきてしまっているのかと思います。昨年は初めてのボランティア、しかも長期ということでもむしゃらにぶつかっていたという感じでした。初めてだらけで考える余裕も少なかったです。今回は自分の中で考える時間や周りを見ることも少しできるようになってきました。その分、ただ過ごしてしまっているのではないかと考えてしまいます。子供への気づきも少なくなっているように思え、「見守る」ではなく「ただ見ている」になっているのかと思います。子供が主役のキャンプなので、新鮮な気持ちで子供たちに接し、良さに気付いていきたいと思います。また、自分の中でも何か変わるきっかけにしたいと思います。

(2年生 女子学生)

○朝、登校バスの発車時刻を私が10分遅く認識してしまったため、子供たちに迷惑をかけてしまいました。しかし、子供たちは私を責めることもなく、気に掛ける言葉をかけてくれて、優しい子供たちだと改めて感じました。それが日常にも現れており、お互いを思いやる気持ちが強く、班意識もあり、学校での日々の訓練によるものなのかもしれないが、素晴らしいと感じています。グループリーダーとしては、風邪の症状が出ている子供を気にかけていこうと思います。それが精神的なものによるのか、しっかり判断していきたいと思います。健康観察はもちろん、一人一人をしっかり見て、言葉にも耳を傾けたいです。ビーイングで書いたことをふりかえり、私が見てうれしかったことをいくつかほめました。「できる」が子供たちの中で当たり前になっているので、「そんなの当たり前だよ」と笑って返してくれた姿に頼もしさを感じました。

(4年生 女子学生)

< 4 日目 >

○ついに折り返しということで、子供たちの関係にも大なり小なり変化が見られました。班の子と一緒に行動できず他の班の子と一緒にいる子、班での仲が深まってきて班での行動を重視する子、グループリーダーを頼りにしてくる子・・・様々な変化が起こる中で、グループリーダーがどのように対応していくべきなのかがポイントになるかなと思いました。自分もあまり経験値がないので、困っている1年生のボランティアに答えを出してあげられることはないけれど、聞いてうなずいて共感してあげるだけで少し楽にさせてあげることができるのであれば、たくさん話を聞いてあげて解決の糸口を一緒に見つけられたらよいと思います。職員さんや先輩ボランティアの子供への問いかけ等を見ながら、ヒントを自分でも見つけていきたいと思います。あと3日、全員そろって最後をむかえたいです。

(3年生 女子学生)

○私の班は、食べ物に塩をかける癖ができてしまい、食事に関してかなり危険な状況にあると思います。注意をし始めました。しかし、なおる気配がないため引き続き注意をしようと思います。子供たちのチャレンジを促すための仕掛けをもっと考えたいです。自ら発言したり行動し

たりするためには、いかにして良い発問をし、自分たちで考えさせるかだと思います。その他、今日の反省点として、各リーダーを（男女それぞれに）つくることができなかったことや、班の中で行動が遅い子を非難するような雰囲気にしてしまったことがあります。私の発想力のなさや言葉数の少なさがこのような結果になったことは悔やまれます。明日は、「すべきことはなにか」「班で行動、みんなで発言」をテーマに頑張りたいです。（3年生 男子学生）

<5日目>

○今日はいつも以上に班としての感じ方や接し方が自分なりに変化をつけることができたし、班のまとまりも感じられる一日だったと思います。ドッチビー大会では、負けても次を考えてどうやったら勝利できるか子供たち一人一人から意見を活発に出すことができていました。やっとみんなからの意見を拾いながら班としてのまとまりを強いものにできるようになったと実感しました。私自身、子供たちと良い距離感を保ちながら、子供たちでたくさんの発言ができるようにすることができたのでよかったです。また、自分がどのように動けばよいのか考えられるほどの余裕も出てきました。班もまとまってきたと思います。明日の目標は「ほかの班とも協力する」「周りを見る」として、また頑張ります。（3年生 男子学生）

○今日は、私自身が少し具合が悪くなってしまいました。班の子の一人も腹痛を訴えてきました。そんな時、班のみんなが心配してくれて私のそばにいてくれたわってくれました。また、おなかが痛い女子に男子が「大丈夫か？無理するなよ。体調良くなったら来いよ。待ってるから。」と言っているのを聞いて感動しました。（1年生 女子学生）

<6日目>

○学校から帰ってきてからの子供たちは、疲れている中にどこか嬉しそうな表情をしていたのが印象的でした。一つ一つの行動から、とても積極性が育っているなども感じました。時間に遅れることはないけれど、子供たちの行動がどこかゆったりとしていました。明日帰ってしまうという現実から逃げたいような雰囲気にも感じました。班のまとまりという点からしてみると、成長だなと感じ、とてもうれしく思います。とにかく明日で終わりになります。しっかり頑張りたいです。（3年生 男子学生）

○今日は学校から帰ってからずっと子供たちと一緒にいられました。見ているだけで子供たちとグループリーダーとの信頼関係が見られたと思いました。初日はどうなるかと思っていましたが、どの班もまとまりが出てきたなと感じました。「家訓づくり」では、子供たちからたくさんの言葉が出てきていて、それを引き出しているグループリーダーの力もすごいなあと思ってうれしく見ていました。今日は統括リーダーとして何も手を貸すこともなく楽に一日過ごすことができたので、最後の段階に来ていることを実感しました。明日で最後、何事もなく終わることを願ってニコニコしておこうかなと思いました。（3年生 女子学生）

### 3 ボランティアスタッフのレポート（事業を終えてのふりかえりシートから）

○女子学生（1年生）

7日間という、自分の中では初めての長期キャンプでした。

子供たちに会うまでは、不安しかなかったですし、緊張もしていました。一週間通して自分で思ったことは、子供たちの力をもっと信じればよかったなということです。ビーイングでの模造紙を見て、班の子供たちが思っていることってたくさんあるんだと感ずることができたし、子供たちが共有している気持ちもたくさんあるんだなとも感じました。もっと子供たちの発言や意見を聞いて、みんなで共有していければよかったなと思いました。

子供たちが安心して様々なことにトライできる場づくりで、できるだけ話をし続ける子、しない子をつくらないように、私から言葉を投げかけていたつもりでした。私たちの班では、質問に対して「わからない」と答えた子が少なく、むしろ発言をする子が多かったので、他の人の言葉に埋もれてしまって自分の話をうまく伝えられなかったり、お互いを傷つけてしまうような言葉を投げかけていたりしてしまっている子がいて、心を傷つけていないか心配がありました。子供たちのふりかえりシートでは「楽しかった」という肯定的な感想が多く書かれてあったので少し安心しましたが、自分の中でもっと子供たちへの言葉の投げかけなどを工夫したいです。子供たちにとっては短い一週間だったようです。私も同じで、班の子供たちといると一日があつという間でした。まだまだ子供たちの目線に立って話すこともできませんが、少しずつでも、自分自身が成長していきたいと思ひます。

7日間本当にありがとうございました。もっともっと子供たちと関わる事業に参加していきたいです。経験したいです。

○女子学生（1年生）

最後はみんなが笑顔で終われることを自分の中で目標に過ぎしました。これまでケンカなどの問題がなかったのですが、最終日に班の子がケンカをしてしまいました。実際には自分の目で見ず、周りからの情報や本人たちの言い分を聞いて解決しようとしてしました。ですが、ケンカした者同士を仲直りさせるのは難しく、N（ボランティア仲間）にも協力してもらいなんとか解決しました。また、納得させるのも大変でした。自分の想いを伝えることは大変なんだなと感じました。

一週間、全体をとおしてうまくいったこともいかなかったことも自ら体験でき、とてもよい経験となりました。私の力不足が多くありましたが、ボランティアの仲間や子供たちもカバーしてくれて本当に助かりました。この一週間は、子供たちを成長させるものでもありましたが、私も成長させられるものでした。大変なこともありましたが、楽しく事業を終えることができ安心しています。毎日の関わりで反省すべき点が多くあり、また気づくことができました。子供との信頼関係、学習指導、集中のさせ方・抜かせ方など、まだまだなところがありました。今後の課題として受け止めていき、大学での実習等にも役立てたいと思ひています。積極的に事業に参加し自分の力を高められるよう努力していきたいです。

短期間ではなく長期間という時間が、本当の子供の姿を見せ、その対処について学べる機会でした。一週間、職員さん方にも大変お世話になりました。ありがとうございました。



○女子学生（2年生）

初めての長期間ボランティアでした。初日から子供たちの元気におしつぶされ気味で、私は、「私には一週間は無理かもしれない」と、館内オリエンテーリングをしているときに思いました。それは、自分が子供たちとの距離をうまくつかめなかったから、子供たちの輪の中に自分がどこまで踏み込んでいいのか分からなかったからです。しかし、先輩ボランティアの皆さんと職員さんの助言のおかげで頑張ることができました。少しずつ子供との距離を近く、そして、いい距離感というものをつかんでいったと思います。自分があれこれ悩んでいても、ボランティアの仲間の「話聞くよ!」の一言で頑張ることができました。話を聞いてもらえることの安心感は子供たちも同じと気づいたきっかけとなりました。職員の皆さんのお話は自分を上へ向かわせてくれて、ボランティアの仲間は横で支えてくれて、とても感謝しています。

子供たちは私が思っているより大人であること、考えがしっかりしていること、言われたことはできるということ（やるかやらないか）など、子供たちについて気づいたことがたくさんありました。子供たちへの接し方などは、最終日になってやっとわかったことも多々ありました。

子供たちも私も喜怒哀楽がいろいろありました。私自身の反省点も多々。充実しすぎて、学ぶことが多すぎて、考えることが多すぎて、悩むことも多すぎて、それでも参加して本当に良かったです。これをきっかけに自分を高めていきたいです。



# VII 成果と課題

## 1 成果

### (1) 参加児童の変容

- ・参加した児童の「生きる力」(知・徳・体のバランスのとれた力)の向上がみられた。
- ・参加した児童の「情動知能」(心の知能指数)の向上がみられた。
- ・参加した児童の基本的な生活習慣(早寝早起き・家庭学習・整理整頓等)の向上がみられた。
- ・参加した児童の精神的な成長を保護者が感じることができた。

※「IV 通学合宿の効果」(26ページ～)、「V保護者アンケートから」(43ページ～) 参照

### (2) プログラム開発

- ・「生きる力」「情動知能」の向上や、児童の変容に対する保護者の実感などから、本事業の有用性が明らかになった。
- ・「学習・交流」の時間に様々なプログラムを取り入れたことにより、参加児童が楽しんで夜の活動をすることができた。また、岩手山青少年交流の家の新たな活動プログラムの開発につながった。

### (3) ボランティアスタッフの成長

- ・児童と長期間にわたり接することで、指導・支援の難しさを体験するが、教職を目指す者にとっては、将来の糧になった。
- ・ボランティア同士の助け合いの中で、その絆が深まった。
- ・長期合宿の体験により自信と積極性を身に付け、他の様々な事業やボランティア活動に参画する者が多くなった。

※「VI ボランティアレポート」(50ページ～) 参照

## 2 課題

### (1) 参加児童の変容

- ・「生きる力」や「情動知能」の向上はみられたが、男女別や学校・学年別による向上の差など、細かな分析をし、新たな課題やニーズを明らかにしてそれに向けたプログラムを考えていきたい。

### (2) 事業実施について

- ・対象校の協力がある事業である。滝沢市や教育委員会と協力しながら、市内においては対象校に偏りがないような事業実施体制を整備したい。

### (3) スタッフ体制の整備・維持・改善

- ・長期間、児童に深く寄り添っての事業となるため、相当のスタッフが量・質ともに必要である。数年の実施により、スタッフ体制は整備されたが、それを維持・改善していくための職員の研修やボランティアの育成が必要である。



国立岩手山青少年交流の家 教育事業  
通学合宿「テンちゃん一家の一週間」  
事業報告書  
～通学型長期宿泊体験で生きる力を～

編集

独立行政法人国立青少年教育振興機構  
国立岩手山青少年交流の家  
〒020-0601  
岩手県滝沢市後292 (<http://iwate.niye.go.jp>)



独立行政法人国立青少年教育振興機構

# 国立岩手山青少年交流の家